



ホットな福祉情報誌



「はあとふるふくしま」の作成経費の一部として、共同募金配分金および特別賛助会員の寄付金を使用させていただいております。

社会福祉法人 福島県社会福祉協議会

目の不自由な方のために「はあとふるふくしま」は音訳版及び点訳版を作成しています。

# はあとふる ふくしま

No.292

2021

2月



## 介護人材の確保・定着に向けた「魅力ある職場づくり」

### 離職する職員を減らし、介護人材の確保・定着につなげる取組みを

社会福祉法人ライフ・タイム・福島では、業務改善委員会を立ち上げ、職員満足度調査を通して見えてきた課題改善のため、職場の人間関係を円滑にする取組みを行っています。

★詳しくは5ページでご紹介

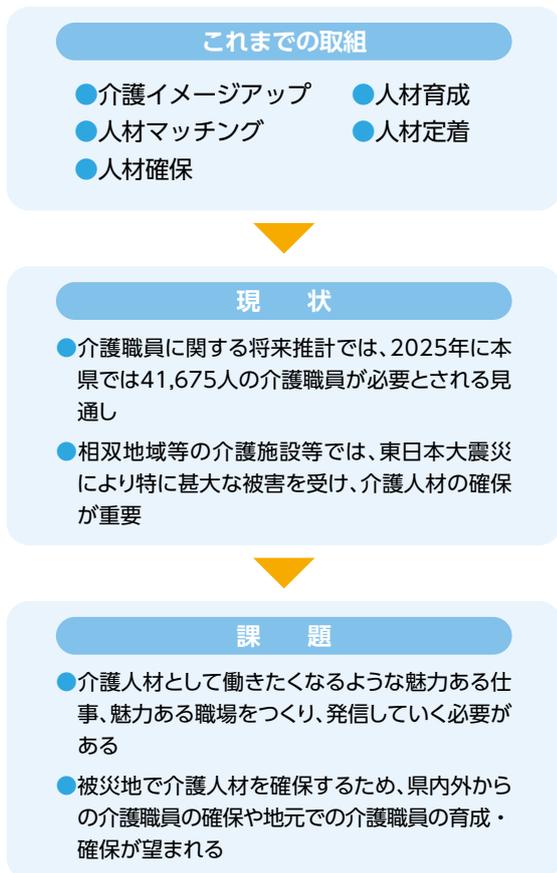


## 介護人材の確保・定着に向けた 「魅力ある職場づくり」

介護人材不足が問題となっているなか、人材の確保・定着に繋げるには離職者を減らすための取組みが重要となります。今回は「魅力ある職場づくり」に着目して紹介していきます。



図1 県内の介護人材の現状と課題  
「福島県介護人材確保戦略」概要版より引用



本県の介護従事者を  
取り巻く状況と方針

福島県（以下、県）の高齢者人口は、約10年後の2030年にピークを迎え、以降は大幅な数の変化はない状態で推移すると見込まれています。その一方で、生産年齢人口<sup>※1</sup>は年々減少を続け、介護の担い手不足等の問題は深刻さを増しています。介護人材確保という視点では、離職者を減らすことも重要な対策の一つとされています。令和2年度発表の「介護労働実態調査（以下、調査）」<sup>※2</sup>において、「介護関係の仕事をやめ

た理由」の上位には男女ともに、「職場の人間関係に問題があったため」とあり、また女性は「結婚・妊娠・出産・育児のため」が最も高くなっています。

こうした現状や課題を踏まえ、図1、県では令和2年11月に「福島県介護人材確保戦略」<sup>※3</sup>を策定しました。図2に示しているとおり、これまで取組んできた5本の柱を基盤としつつ、3つの戦略を重点的に取組むとしています。

戦略1にあるように、今働いている職員を大事にできる「魅力ある職場づくり」を推進することで離職者

図2 戦略的な取組

「福島県介護人材確保戦略」概要版より引用

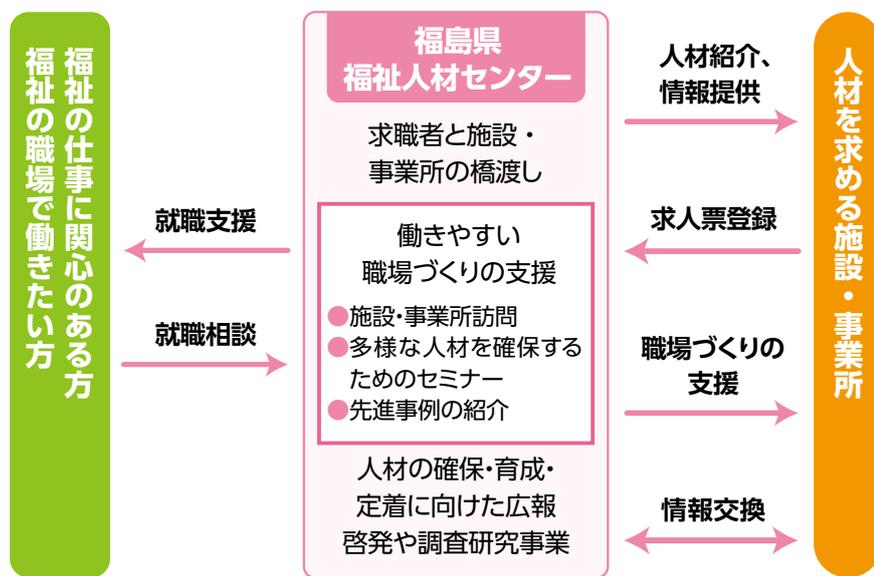


の減少（人材の定着）にも繋がることを考えます。  
これらを踏まえて、次頁では「職場の人間関係の改善」「女性のライフスタイルに合わせた働き方」という視点から魅力ある職場づくりを実践している法人についてご紹介します。

本会の取組み

福島県社会福祉協議会（以下、本会）では県からの委託を受け、「ふくしま福祉人材確保推進プロジェクト」事業を基に、福祉人材確保に向けて様々な取組みを行っています。本会

図3 福島県福祉人材センターとは



には、無料職業紹介事業を行う「福島県福祉人材センター（以下、福祉人材センター）」が設置されており、福祉人材センターを中心に、福祉の仕事を探す方と福祉の職場を繋ぐ支援を行っています。  
また、福祉人材センターでは施設や事業所への訪問活動や、人材確保に関するノウハウを伝えるセミナー

の開催をおとして、働きやすい職場づくりを支援しています。さらに、施設・事業所で行っている先進的な取組みを福祉人材センターのホームページ等で紹介することにより、広く現状や対策について知ってもらう機会を設けています。

- ※1 生産活動の中核をなす、15歳以上65歳未満の人口層
- ※2 公益財団法人介護労働安定センター「介護労働の現状について令和元年度介護労働実態調査の結果と特徴」より引用。なお、本統計は、現在介護職員として勤務し、前職も介護関係従事者を調査対象としたもの
- ※3 令和2年度から令和7年度の6年間で対象に、介護人材確保に重点的に取り組むための戦略

4～5ページで紹介している法人を含め、全3法人の取組みを、福祉人材センターのホームページでさらに詳しく紹介しています。ぜひご覧ください。  
ホームページ <https://f-fjc.com>



結婚・出産・育児を経ても働き続けるための取組み

## 職員が主体になれる職場づくりを

社会福祉法人 太田福祉記念会 「郡山市」

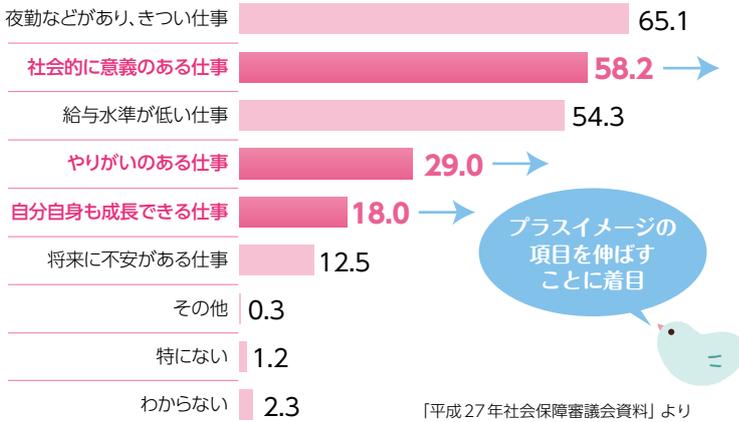


社会福祉法人 太田福祉記念会  
 常務理事兼法人事務局長 佐々木 俊仁さん (写真中央)  
 特別養護老人ホーム玉川ホーム園長 猪腰 久子さん (写真右)  
 法人事務局次長兼事務長 早津 憲一さん (写真左)

### 「両立支援」と「均等支援」の 視点で職場環境を整える

「より質の高い介護サービスの提供」を目指す太田福祉記念会では、女性職員が全体の約7割と、女性が多く活躍している法人です。「女性に長く働いてもらうためには、働きやすい職場であること、やりがいを持って働けることが重要だと思っています」と話すのは佐々木常務理事。先代理事長時代から女性が働きやすい職場づく

図4 介護に対するイメージ



りを目指し、平成25年には厚生労働省より「子育てサポート企業ぐるみん※4」の認定を受けました。その後、平成27年に社会保障審議会の資料にあった「介護に対するイメージ」

の調査結果 図4 をみて、このプラスイメージを引き上げようと、女性だけでなく全職員が働きやすい職場づくりに向けて取組みを始めました。

体制整備にあたっては、産前産後休暇中の基本給の全額支給や育児後の時短勤務など「仕事とプライベートとの両立支援」と、研修体系の見直しや給料表の改訂など、職員間で不平等感が生まれにくいように「均等支援」という2つの視点のバランスを取りながら進めていくことにしました。

### 職員が主体になれる職場づくりで 「全職員」が働きやすい環境へ

職員自身が自分たちの施設に愛着を持つことがやりがいにつながることを考え、アンケートや上司との面談などを行い、職員の意見を聞いています。平成30年に行われた施設改修では、全職員アンケートで挙げた要望を取り入れたり、新しいユニフォームや名刺などを職員による委員会で見直したりしました。また、事業計画の策定にも職員が参画しバラエティーに富んだイベントが企画されています。猪腰園長自身も子育てをしながらキャリアアップしてきた一人。「職員



利用者と犬が触れ合う「わんこと遊ぼう」は、職員のアイデアから生まれたイベントです

との面談のなかで家庭のことや健康についての心配ごとがないか、職員の思いや声に耳を傾けることを意識しています」と話します。

こうした取組みによって、女性の平均勤続勤務年数が長くなるとともに、女性管理職の割合が約7割に増え、平成28年には全国で3例目の「女性活躍推進法」に基づく認定(えるぼし※5)の取得につながっています。また近年では、介護職(正職員)の離職率が2%台で推移するなどの成果もありました。「職員に誇りをもって働いてもらうことが大切。今後も女性をはじめとする職員全員という視点で職場環境を整えていくとともに、男性の育児休業を促進していきたいです」と早津事務局次長は話してくれました。

※4 ぐるみん 子育てサポートにおいて高い水準の取組みを行っている企業に与えられる認定制度  
 ※5 えるぼし 女性の活躍推進の状況などが優良な企業に与えられる認定制度

職場の人間関係を円滑にする取組み

業務改善委員会を立ち上げて、

職員のモチベーションを高める取組みを

社会福祉法人 ライフ・タイム・福島 「福島市」



社会福祉法人 ライフ・タイム・福島  
理事兼事務局長 森 重勝さん (写真左)

ロング・ライフ 訪問介護事業所  
管理者兼サービス提供責任者  
本田 圭子さん (写真右)

職員の不満を業務改善につなげる委員会を発足

以前からホームヘルパーとしての業務にやりがいを感じていたという本田さん。しかし他の部署では、コミュニケーションの希薄化や人材育成、業務改善のための明確な仕組みがないため離職者が多く、各事業所の取組みや雰囲気の違いによって離職者数に差が出ているのではと感じ

ていました。そこで森事務局長に、『業務改善をきっかけに不平不満をなくしていけたら、離職者数も改善されるのでは』と提案し、職員主体で活動する業務改善委員会(以下、委員会)の立ち上げが実現。森事務局長も「法人主導で委員会を作ると強制になってしまふ。挑戦したい人が関わることでも活動も長続きすると思った」とメリットを話します。

平成29年8月に発足した委員会は、職員が安心して働ける法人となるために、様々なことを考え・検討し、実行の仕組みを作ることを目的としています。各事業所の困りごとや相談を共に考え、改善案を提案し、実行の支援やフォローを行いつつ、当事者が対応・改善できるよう支援を行うのが特徴です。

誰でも、どの事業所でもできる仕組み作りを

まずは職員が何をどう思っているのか、現状を把握し改善点を確認しようと職員満足度調査を実施した結果、組織としての仕組みやルールが不十分なことがわかりました。また、「コミュニケーション力や管理能力の向上についても取組む必要があることがわかりました。

そこで委員会では、分かりやすい仕組みづくりやマニュアルの見直しを行う必要があると法人に伝えました。まずは、職員レベルでも実現可能な改善に取り組むこととし、事業所内の整理整頓に着手したほか、内部委員会との連携によるあいさつ活動の実施や



感謝の気持ちをカードに書いて掲示することで、コミュニケーションの円滑化に役立っているサンキューボード

毎月発行している業務改善新聞は、誰でも見ることができるよう職員用トイレに掲示。職員間で一つのコミュニケーションツールとなっているそう



サンキューボードの設置等を行うことでコミュニケーションの円滑化に努めました。また、課題となっていた職員駐車場や職員トイレの整備等についても法人に意見を出し、職場環境の改善につながりました。

委員会の役割が明確化されたことで仕事に対する不満が減少するとともに、職員の自主性や責任感が高まるなどの波及効果がでてきていると森事務局長。「離職率の高い3年目までの職員への対応が課題で、職員が求める働きやすい環境をいかに整えるか法人の力量が試されている」と話します。

今後は、委員会の活動実態を改めて確認し、活動自体の改善を考えていきたいと本田さんは話していました。



■取材協力

NPO法人 相双に新しい精神科医療  
保健福祉システムをつくる会

南相馬事務所／南相馬市

原町区南町 3 丁目 2-7

TEL0244-26-9353

http://soso-cocoro.jp



1

懐食 (なつしょく)・心のふるさと復興プロジェクト

## 懐かしいふるさとの食をキーワードに 支え合う地域を作っていきたい



4

5

震災後、訪問活動やサロン活動などを通じて、相双地区でこころのケアを必要としている方々を支援している、NPO法人 相双に新しい精神科医療保健福祉システムをつくる会。一人ひとりの思い出に残る「食」をキーワードに、新たなケアに取り組んでいます。

思い出のある「懐食」を  
次の世代に伝えるために

南相馬市で平成29年にスタートした「懐食・心のふるさと復興プロジェクト」。そのきっかけについては、同会の保健師・伏見香代さんは、「震災や津波で避難された高齢の方を訪問した際、昔食べたものや家族に作ってきた料理の話をするとう表情がイキイキすることが多く、誰にでも共通する料理の話は、心のケアにも効果があるのではと感じました」と話します。その中で、江戸時代末期の天保の大飢饉のころ、復興支援に北陸から移住した人たちが振る舞った「べんけい」という料理が今も残っていることを知り、同じように料理で励まし合ったり一緒に作ったりしてみようと活動を始めました。

懐かしいと思う料理、思い出のある料理を「懐食」として聞き取りを始めると、震災で家族が離れて暮らすようになったこともあって、次の世代に伝えたいという思いが強いことや、料理が家庭やコミュニティで人と人とながらる役割を果たしてきたことが分か



給食のメニューにも懐食を取り入れるなど、新たな活動につなげていきたいと話す伏見さん(左)と長森さん(右)

りました。エピソードとともに集まった料理はレシピ集として発行。昨年度までに3冊が誕生しています。

「懐食」で広がる  
「コミュニティの輪」

「避難を余儀なくされた小高地区に帰還した住民が少ない状態で、当園はコミュニティの中で何ができるかを考えてきました」と話すのは、南相馬市立おだか認定こども園園長の長森由歌りさん。懐食プロジェクトで、園児と地域の高齢者が一緒に料理を作り味わう体験は、子どもたちにとっては懐食



# 赤い羽根 でささえあい

社会福祉法人 福島県共同募金会

〒960-8141 福島市渡利字七社宮111 (福島県総合社会福祉センター内)

TEL (024) 522-0822 FAX (024) 528-1234

メールアドレス akaihane@axel.ocn.ne.jp

ホームページ <https://akaihane-fukushima.or.jp/>



## 皆様の募金により、 「つながり」が生まれています。

まもなく東日本大震災から10年を迎えます。復興・災害公営住宅や避難先、転居先での新たなコミュニティづくり、避難解除となった地区や津波等で被災した地区のコミュニティの再生を目的とした地域活動を支援するため、福島県共同募金会では中央共同募金会からの委託を受け、「令和2年度赤い羽根『災害ボランティア・NPO活動サポート募金2』被災地住民支えあい活動助成事業」を実施してきました。今月号では、今年度助成を受けた団体からお寄せいただいたメッセージをご紹介します。



### 富岡町老人クラブ いわき会 (助成事業名：老人クラブいわき会住民交流事業)

当クラブの会員となっている方も、そうでない方も富岡町民は離れ離れになっています。会員・非会員問わず、お互いの親睦・交流を図りたい、皆が集まれる地域でスポーツ交流の場を設け、お互いの生活の癒しの一端を担えればという思いから、だれもが楽しめるグラウンドゴルフ交流大会をいわき市新舞子運動場にて実施いたしました。

当日はあいにくの強風の中、悪戦苦闘しながらも競技を楽しんでおりました。広い青空の下でお互いグラウンドゴルフを通じて会員も、そうでない方も交流を大いに深められたものと思います。参加した方からは「こうして野外で活動できるのはストレスの解消につながるので、とてもよかった」との意見が多く聞かれました。短い一日ではありましたが、楽しく有意義な一日を過ごさせていただきました。時間はあっという間に過ぎ去り、参加者からは「今後もこのような機会を設けてください」との要望が多く聞かれました。私達も避難して間もなく10年を迎えようとしておりますが、親しい友達ともめつたに会えない中で、このような場を設けることができ、本当に感謝申し上げます。ありがとうございます。



青空の下、全員で記念撮影



■小高地区の名物料理として親しまれている大蛇巻(長〜い海苔巻き)を作る保護者と子どもたち ■地域の高齢者と一緒にだんごさしや、桜もち作りを行いました ■普段の料理は目分量で作ることが多いため、レシピ作りについては若い人にも作りやすいように、きちんと分量をまとめるのが大変だったそう ■芋がらと大根の炒め煮「べんけい」は、萱浜(かいほま)地区にだけ伝わる郷土料理

の記憶づくり、高齢者には次世代に伝える場になっており、園を越えたつながりも生まれています。今年度は新型コロナウイルスの影響でこうした機会も作れませんでした。バス遠足の代わりに園児親子が小高の街なかを歩くスタンプラリーを実施したところ、「懐食を通じて顔が見える関係になったことで、子どもたちが歩く姿を地域の方たちが喜んでくれたことがうれしかった」と長森さんは話します。

これまでの活動について伏見さんは、「震災から10年が経ちますが、津波で息子さんを亡くした高齢者の方が、息子さんの好物だったあんこうのとも和えを作り近所におすそわけするなど、料理を通して思い出に触れることが、セルフケアや地域コミュニティでの支え合いにもつながると感じています」と話し、コロナ禍でみんなが集うことが難しい中、一人が一人に話す・伝えることの大切さも再認識したそうです。今後も同会でのサロン活動等に加え、賛同し協力してくださる方々とともに活動を継続していきたいと伏見さん。他の地域や県外避難している人にも「懐食」のコンセプトが広がることで、料理を介した心のケアがコミュニティの中でできるようになるのではと、「懐食」の可能性に期待を寄せています。

## 介護福祉士・社会福祉士・保育士の資格を取得し、福祉の職場を目指す方へ学費をサポートします!!

福島県介護福祉士修学資金等貸付制度・保育士修学資金等貸付制度のご案内

- 貸付の内容**
- ① 修学資金 月額5万円以内
  - ② 入学準備金 20万円以内
  - ③ 就職準備金 20万円以内
  - ④ 国家試験受験対策費 4万円以内
- ※④は、介護福祉士のみ



**貸付利息 無利子**  
 福島県内で介護・福祉職、保育士として5年間働くと全額返済免除(\*\*)

※免除には一定の要件があります。

**申請手続き** 養成施設(短期大学・専門学校等)の推薦を受けての申請となります。  
 ※貸付が決定になった場合、送金は入学後になります。

お問い合わせ先

県社協 福祉サービス支援課  
 TEL 024-523-1256

介護福祉士  
 修学資金等チラシ



保育士  
 修学資金チラシ



## クロスワードにチャレンジ!

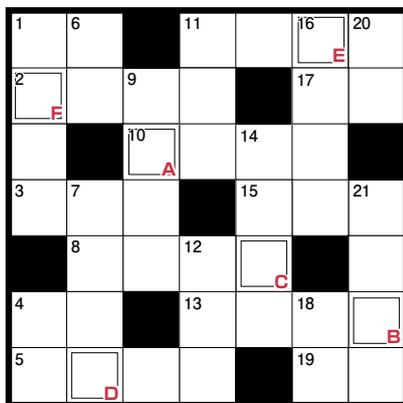
\* 正解者から抽選で3名にプレゼントが当たる!

### ヨコのカギ

- ① 弓矢や弾丸を命中させる標的
- ② 日本生まれの娯楽。中国語では「カラ OK」
- ③ 整った形が崩れてゆがんでいる。漢字では「歪」
- ④ 鬼は外! ○○は内!
- ⑤ ○○○○定規。猫も○○○○も
- ⑧好きな相手の事での嫉妬。○○○○をやく
- ⑩買った物を自分で使わず他人に売ること
- ⑪ コレを食うと真っ直ぐ家には帰りません
- ⑬ 使用目的に合わせて調製したクスリ
- ⑮ 一番大きな動物
- ⑰ 漢字では「柔魚」「墨魚」「烏賊」。十本脚
- ⑲ 地面にあります

### タテのカギ

- ① 飲食店で従業員の食事に作られる料理
- ④ 竹の継ぎ目
- ⑥ ○○の威を借る狐。張子の○○
- ⑦ 真夜中になっても太陽が沈まない
- ⑨ カルタ遊びで間違った札を取っちゃうこと
- ⑪ 眉と眉との間。○○○にシワを寄せる
- ⑬ 家計の味方の野菜
- ⑭ 中国で春節(旧正月)に鳴らす花火
- ⑯ 食べ物に貪欲な人が張っています
- ⑱ ⇄純。⇄精密。⇄丁寧
- ⑳ 日向、櫻、乃木
- ㉑ 織田信長が行った経済政策。○○○○・楽座令



● 全部できたら二重ワクの6文字をABC順に読んでいくと、それが答えです。

今月の正解者の中から抽選で3名様に、ドリームハウス富夢富夢(喜多方市)の「もちころめ合わせ」をプレゼントいたします。なお、当選者の発表は賞品の発送をもって代えさせていただきます。



### 応募方法

ハガキにパズルの答えと ①住所、氏名(ふりがな)、年齢、電話番号、業種 ②本誌に対するご意見、ご感想、ご要望を全てご記入の上、下記までご応募ください。

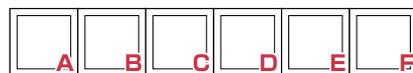
### 締切

令和3年3月12日(金)

### 宛先

〒960-8141 福島市渡利字七社宮111  
 社会福祉法人 福島県社会福祉協議会「はあとふる・ふくしまパズル係」

※ご記入の個人情報は適切に管理し、目的以外に使用しません。  
 ※本誌に対するご意見、ご感想、ご要望の一部は、「読者のおたより」に掲載させていただく場合もございます。



多数のご応募  
 ありがとうございます。

### 1月号の正解

「心のケア(ココロノケア)」

### 編集後記

特集の取材で、ロング・ライフ訪問介護事業所の本田さんが業務改善に取り組む中、「自身の父親も別業種でありながら業務改善に取り組んでいたことが分かったんです」と、お聞きすることができました。本田さんとお父様との仕事を介したつながりに心が温かくなったと共に、業種は違えど取り組むべき部分(わたがへごとこ)は同じであるのだと感じることができました。(人材研修課 渡部智子)

### 12月号への読者のおたより

● 瓜生岩子賞受賞者の方々の人生を知り、とても感銘を受けました。民生委員の方々の日常の努力に頭が下がる思いです。ありがとうございます。(66才 主婦)

● 毎号楽しみにしています。民生委員100周年とのことで、歴史を感じます。私は一人暮らしですので、生活のいろんな面に不自由を感じています。「民生委員に期待されているもの」本当にそうあってほしいと願っております。心から。(90才 無職)